

平成 28 年度
日本商工会議所

第144回

簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

LEC東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C) 2016 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2016年11月20日/2017年2月25日



0 000212 163647

BL16364

第144回 解答

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	売 上	72,000	売 掛 金	72,000
2	当 座 預 金 定 期 預 金	100,000 2,000,000	普 通 預 金	2,100,000
3	消 耗 品 費	30,000	未 払 金	30,000
4	前 受 金 貸 倒 損 失	200,000 600,000	売 掛 金	800,000
5	買 掛 金 通 信 費	250,000 500	支 払 手 形 金 現 金	250,000 500

仕訳1組につき、4点

第2問 (8点)

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
460,000	180,000	84,000	163,000

各2点。

第3問 (30点)

合計試算表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
10月31日	9月30日		9月30日	10月31日
★ 1,360,000	1,260,000	現 金	1,030,000	1,107,000
★ 10,470,500	9,520,500	普 通 預 金	8,223,000	9,267,200
★ 2,068,000	1,576,000	当 座 預 金	500,000	700,000
1,700,000	1,700,000	受 取 手 形	1,200,000	1,700,000
★ 10,950,000	9,800,000	売 掛 金	8,850,000	9,800,000
1,540,000	1,540,000	繰 越 商 品		
150,000	120,000	仮 払 金	120,000	150,000
6,000,000	6,000,000	建 物		
3,200,000	3,200,000	備 品		
★ 1,160,000	960,000	支 払 手 形	1,160,000	1,720,000
★ 7,450,000	6,750,000	買 掛 金	7,450,000	7,725,000
★ 31,500	27,500	所 得 税 預 り 金	31,500	34,500
		建物減価償却累計額	2,400,000	2,400,000
		備品減価償却累計額	2,400,000	2,400,000
★ 332,000	300,000	資 本 金	8,707,300	8,707,300
★		売 上	8,750,000	9,900,000
★ 6,985,000	6,150,000	仕 入		
1,453,000	1,300,000	給 料		
244,000	220,000	水 道 光 熱 費		
★ 88,000	80,000	通 信 費		
★ 121,000	87,000	旅 費 交 通 費		
100,000	75,000	広 告 宣 伝 費		
★ 22,000	20,800	支 払 手 数 料		
★ 113,000	110,000	租 税 公 課		
40,000		修 繕 費		
★ 33,000	25,000	手 形 売 却 損		
55,611,000	50,821,800		50,821,800	55,611,000

★の行につき2点。

第144回 解 答

第4問 (12点)

(1) 仕訳日計表

平成28年11月1日

借方	勘定科目	貸方
70,000	現金	48,000
24,000	受取手形	
80,000	売掛金	54,000
39,000	買掛金	53,000
	売上	120,000
53,000	仕入	
9,000	水道光熱費	
275,000		275,000

現金

28/11/1	前月繰越	78,000	28/11/1	仕入日計表	(48,000)
"	仕入日計表	(70,000)			

※元丁欄と仕丁欄は省略している。

(2) 11月1日現在の札幌商店に対する売掛金残高

¥ (99,000)

□につき2点。

第5問 (30点)

貸借対照表

平成27年12月31日

(単位：円)

現金	(560,000)	買掛金	(440,000)
当座預金	(668,000)	(未払金)	(360,000)
売掛金	(800,000)	未払費用	(3,000)
(貸倒引当金)	(24,000)	借入金	(600,000)
商品	(189,000)	資本金	900,000
前払費用	(80,000)	当期純(利益)	(514,000)
未収収益	(24,000)		
備品	(400,000)		
減価償却累計額	(240,000)		
土地	(360,000)		
	(2,817,000)		(2,817,000)

損益計算書

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで

(単位：円)

売上原価	(3,284,000)	売上高	5,400,000
給料	(960,000)	受取手数料	(107,000)
貸倒引当金繰入	(14,000)		
減価償却費	(80,000)		
支払家賃	(480,000)		
水道光熱費	(130,000)		
通信費	(32,600)		
雑(損)	(400)		
支払利息	(12,000)		
当期純(利益)	(514,000)		
	(5,507,000)		(5,507,000)

□につき3点。

【3 級総評】

全ての問題が基本から標準レベルの問題であり、努力が結果に結びつきやすい内容でした。ただし、第2問は勘定記入、第4問は平成28年度から試験範囲となった新規論点であったので、対策が十分でなかった場合は大きく失点する可能性がある問題でした。

簿記の学習では、仕訳、勘定記入、試算表作成、財務諸表作成が最重要論点ですが、日頃から、1年間の流れを意識しながら、仕訳・転記・集計をすることで、基本的な部分の理解をすることが重要です。

【解説】**第1問**

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があることに注意しましょう。

1. 売上返品

売上返品は、売上取引自体の取消しなので、売上および売掛金を減少させます。

返品額：@ ¥60 × 1,200 個 = ¥72,000

2. 当座預金口座の開設

当座預金口座開設のために、¥100,000 を普通預金から当座預金へ振替えます。また、担保のため、定期預金を設定しているので、¥2,000,000 を普通預金から定期預金へ振替えます。

3. 消耗品の購入

消耗品購入時の処理には、購入時に費用で処理する場合と資産で処理する場合があります。本問では、勘定科目の語群に消耗品がなく、消耗品費のみがあるため、購入時に費用で処理場合として解答します。

4. 貸倒れの処理

売掛金が貸倒れた場合に得意先に対して債務があるときは、売掛金と債務を相殺した上で、残額について貸倒引当金の充当や貸倒損失の計上を行います。なお、勘定科目の語群に貸倒引当金がなく貸倒損失があるため、貸倒引当金の充当はしません。

5. 約束手形の振出しと郵送

買掛金の支払いのために約束手形を振出しているため、買掛金を減少させ、支払手形を増加させます。また、手形の郵送代は、通信費で処理します。

第 2 問

勘定記入に関する問題です。有形固定資産について間接法で処理した場合の勘定記入が問われています。3つの備品について、取得時から当期末までの減価償却費を整理した上で、当期の処理を考えます。

I. 備品ごとの減価償却費の整理

(1) 備品 A

- ① 平成 25 年： $\text{¥}100,000 \times 0.9 \div 5 \text{年} = \text{¥}18,000$
- ② 平成 26 年： $\text{¥}100,000 \times 0.9 \div 5 \text{年} = \text{¥}18,000$
- ③ 平成 27 年： $\text{¥}100,000 \times 0.9 \div 5 \text{年} = \text{¥}18,000$
- ④ 平成 28 年： $\text{¥}100,000 \times 0.9 \div 5 \text{年} = \text{¥}18,000$

(2) 備品 B

- ① 平成 27 年： $\text{¥}360,000 \div 4 \text{年} \times \frac{4 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = \text{¥}30,000$
- ② 平成 28 年： $\text{¥}360,000 \div 4 \text{年} = \text{¥}90,000$

(3) 備品 C

- ① 平成 28 年： $\text{¥}180,000 \div 3 \text{年} \times \frac{11 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = \text{¥}55,000$

※ 2月10日に取得しているため、2月から12月までの11ヶ月分を計算します。

II. 平成 28 年の処理

(1) 開始記入：前期繰越の記入

- ① 備品：備品 A および備品 B の取得原価の合計を記入します。
 $\text{¥}100,000 + \text{¥}360,000 = \text{¥}460,000$
- ② 備品減価償却累計額：備品 A および備品 B の前期末までの減価償却費の合計です。
 備品 A 分： $\text{¥}18,000 \times 3 = \text{¥}54,000$
 備品 B 分： $\text{¥}30,000$
 合計： $\text{¥}54,000 + \text{¥}30,000 = \text{¥}84,000$

(2) 期中取引：平成 28 年 2 月 10 日、備品 C の取得

(借)	備		品	180,000	(貸)	当	座	預	金	180,000
-----	---	--	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

(3) 決算整理：減価償却費の計上

(借)	減		価		(貸)	備	品	減	価	償	却	累	計	額	163,000
-----	---	--	---	--	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---------

平成 28 年の減価償却費： $\text{¥}18,000 + \text{¥}90,000 + \text{¥}55,000 = \text{¥}163,000$

(4) 損益振替：減価償却費勘定の決算整理後残高を損益勘定へ振替えます。

(借)	損		益	163,000	(貸)	減	価	償	却	費	163,000
-----	---	--	---	---------	-----	---	---	---	---	---	---------

(5) 繰越記入：次期繰越の記入

- ① 備品：決算整理後残高を用いて記入します。
 $\text{¥}460,000 + \text{¥}180,000 = \text{¥}640,000$
- ② 備品減価償却累計額：決算整理後残高を用いて記入します。
 $\text{¥}84,000 + \text{¥}163,000 = \text{¥}247,000$

第3問

合計試算表を作成する問題です。

基本的な解答手順としては、まず、問題資料として与えられた取引を考え、次に、借方合計および貸方合計を集計します。

1. 平成28年10月中の取引

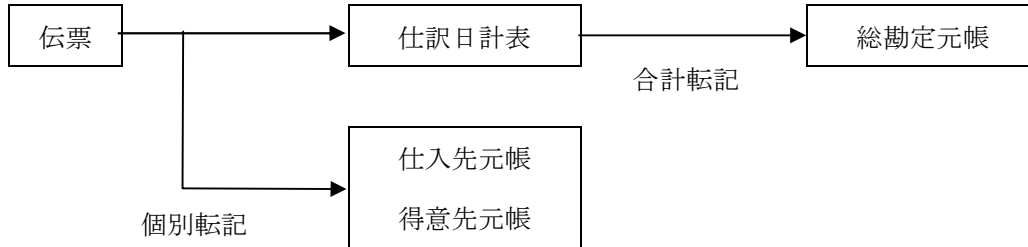
3日	(借)	売掛金	400,000	(貸)	売上	400,000
4日	(借)	広告宣伝費	25,000	(貸)	普通預金	25,000
	(借)	支払手数料	200	(貸)	普通預金	200
5日	(借)	修繕費	40,000	(貸)	現金	40,000
6日	(借)	当座預金	492,000	(貸)	受取手形	500,000
		手形売却損	8,000			
11日	(借)	所得税預り金	4,000	(貸)	普通預金	4,000
12日		仕入	275,000	(貸)	買掛金	275,000
13日	(借)	仮払金	30,000	(貸)	現金	30,000
14日	(借)	売掛金	750,000	(貸)	売上	750,000
17日	(借)	旅費交通費	34,000	(貸)	仮払金	30,000
					現金	4,000
18日	(借)	現金	100,000	(貸)	普通預金	100,000
20日	(借)	支払手形	200,000	(貸)	当座預金	200,000
25日	(借)	給料	153,000	(貸)	所得税預り金	3,000
					普通預金	150,000
26日	(借)	租税公課	3,000	(貸)	現金	3,000
27日	(借)	仕入	560,000	(貸)	支払手形	560,000
28日	(借)	資本金	32,000	(貸)	普通預金	64,000
		通信費	8,000			
		水道光熱費	24,000			
31日	(借)	買掛金	700,000	(貸)	普通預金	700,000
	(借)	支払手数料	1,000	(貸)	普通預金	1,000
〃	(借)	普通預金	950,000	(貸)	売掛金	950,000

第144回 解説

第4問

伝票会計の問題です。仕訳日計表の作成と総勘定元帳への記入が問われています。

＜伝票会計の流れ＞



- (1) 仕訳帳の代わりに伝票を用いて取引を記録します。
- (2) 伝票を集計して、仕訳日計表を作成し、総勘定元帳へ合計転記します。
- (3) 仕入先元帳や得意先元帳のように補助簿がある場合には、伝票から補助簿へ個別転記します。

伝票を仕訳の形になおすと、以下のようになります。

〈入金伝票〉

No.101	(借)	現	金	30,000	(貸)	売掛金(札幌)	30,000	
No.102	(借)	現	金	40,000	(貸)	売	上	40,000

〈出金伝票〉

No.201	(借)	買掛金(埼玉)	23,000	(貸)	現	金	23,000
No.202	(借)	買掛金(千葉)	16,000	(貸)	現	金	16,000
No.203	(借)	水道光熱費	9,000	(貸)	現	金	9,000

〈振替伝票〉

No.301	(借)	売掛金(札幌)	80,000	(貸)	売	上	80,000
No.302	(借)	受取手形	24,000	(貸)	売掛金(仙台)	24,000	
No.303	(借)	仕	入	53,000	(貸)	買掛金(埼玉)	53,000

これらを集計し、仕訳日計表に記入します。その後、総勘定元帳の現金勘定へは仕訳日計表から合計転記します。仕訳日計表の元丁欄には転記先の勘定の番号を、総勘定元帳の摘要欄には転記元である「仕訳日計表」、仕丁欄には仕訳日計表の頁数を記入します。

なお、札幌商店に対する売掛金勘定の残高を求める必要もあるため、札幌商店に対する売掛金についても集計が必要です。

第5問

貸借対照表および損益計算書の作成問題です。決算整理事項等にもとづいて未処理事項および決算整理仕訳を行い、これを勘定科目ごとに決算整理前残高に加減算して、各勘定の決算整理後残高を算定します。その後、勘定科目と表示科目の違いに注意しながら、決算整理後残高を損益計算書および貸借対照表に記入します。

決算整理事項等

1. 現金過不足

実際有高¥560,000と帳簿残高¥564,000との差額¥4,000のうち、¥3,600は通信費の記入漏れであり、残額の¥400は原因不明のため雑損とします。

(借)	通	信	費	3,600	(貸)	現	金	4,000
	雑		損	400				

2. 仮受金の精算

仮受金を取消すとともに、売掛金を減少させます。

(借)	仮	受	金	67,000	(貸)	売	掛	金	67,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

3. 訂正仕訳

土地購入に伴う未払いは、未払金で処理するため、訂正仕訳を行います。

(借)	買	掛	金	360,000	(貸)	未	払	金	360,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

4. 貸倒引当金の設定

貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように不足分を繰入れます。仮受金の精算により売掛金が減少していることに注意が必要です。

(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	14,000	(貸)	貸	倒	引	当	金	14,000
-----	---	---	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------

売掛金：¥867,000－¥67,000＝¥800,000

貸倒見積額：¥800,000×3%＝¥24,000

貸倒引当金繰入：¥24,000－¥10,000＝¥14,000

5. 商品の決算整理

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定へ振替えます。そして、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定へ振替えます。これにより、仕入勘定の決算整理後残高は売上原価を表します。

(借)	仕	入	273,000	(貸)	繰	越	商	品	273,000
(借)	繰	越	商	品	189,000	(貸)	仕	入	189,000

6. 減価償却

定額法による1年分の減価償却費は「(取得原価－残存価額)÷耐用年数」です。

(借)	減	価	償	却	費	80,000	(貸)	備	品	減	価	償	却	累	計	額	80,000
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--------

償却額：(¥400,000－¥0)÷5年＝¥80,000

第144回 解説

7. 支払家賃の繰延べ

支払家賃のうち、翌期に対応する分を繰延べます。

(借)	前払家賃	80,000	(貸)	支払家賃	80,000
-----	------	--------	-----	------	--------

$$\text{前払家賃} : \text{¥}240,000 \times \frac{2\text{ヶ月}}{6\text{ヶ月}} = \text{¥}80,000$$

8. 支払利息の見越し

翌期に支払う支払利息のうち、当期に対応する分を見越し計上します。

(借)	支払利息	3,000	(貸)	未払利息	3,000
-----	------	-------	-----	------	-------

$$\text{未払利息} : \text{¥}600,000 \times 2\% \times \frac{3\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}3,000$$

9. 受取手数料の見越し

翌期に受取る手数料のうち、当期に対応する分を見越し計上します。

(借)	未収手数料	24,000	(貸)	受取手数料	24,000
-----	-------	--------	-----	-------	--------

10. 財務諸表の作成の留意点

勘定科目ごとの決算整理後残高を求めたあと、勘定科目と表示科目の違いに留意しながら貸借対照表と損益計算書を作成します。

<勘定科目と表示科目>

	勘定科目	表示科目	備考
P/L	売上	売上高	収益の一番上に記載する
	仕入	売上原価	費用の一番上に記載する
B/S	繰越商品	商品	期末の在庫を示す
	建物減価償却累計額	減価償却累計額	建物の下に表示する
	備品減価償却累計額	減価償却累計額	備品の下に表示する
	前払〇〇	前払費用	前払保険料、前払家賃などを 合計して表示する
	未収〇〇	未収収益	未収利息、未収手数料などを 合計して表示する
	前受〇〇	前受収益	前受家賃、前受手数料などを 合計して表示する
	未払〇〇	未払費用	未払利息、未払地代などを 合計して表示する
	資本金	資本金、当期純利益	期末残高を決算整理後残高 と当期純利益に分けて記載する